

a 学校教育目標	夢を持ち果敢に挑戦し、次代を担う生徒の育成	b 経営理念 ミッション・ビジョン	【ミッション】(自校の使命) 社会のために役立つ志を抱く生徒の育成 【ビジョン】(自校の将来像) 知・徳・体のバランスのとれた力を身に付け、郷土から愛される生徒の通う学校
----------	-----------------------	----------------------	--

評価計画				自己評価						改善方策		学校関係者評価			
c 中期経営目標	d 短期経営目標	e 目標達成のための方策	f 評価項目・指標	g 目標値	10月	2月	i 達成度	j 評価	k 結果と課題の分析	n 改善方策	l 評価			m コメント	
					h 達成値	h 達成値					イ	ロ	ハ		
確かな学力	自ら学び仲間と協働して学習できる生徒の育成	基礎学力の定着と個別最適な学びの充実	○思考力・判断力・表現力等の育成をめざした授業改善 ○家庭学習の習慣化と授業への活用	学校評価アンケートの肯定的な回答率 ※授業がよくわかる/家庭学習の項目「1,3,4」	90%	90.0% 83.7% 51.8%	92.5% 81.6% 54.3%	102.8% 90.7% 60.3%	B	・授業がよくわかる/提出物を確実に出すの2項目とも目標値を上回った。これは、落ち着いて授業を受ける場面が増えてきたためだと考える。 ・家庭学習への取組は目標値を大きく下回った。生徒の家庭での予習復習の意識が高まっていない。	・1人1授業研究に一人年間2回以上参加し、授業改善を行っていく。 ・家庭学習の取組について、研究部を中心に具体的な取組等を協議していき、方向性を考えていく。また、アンケート調査の結果を保護者にも伝え、各家庭への協力をお願いする。	○			・各教科、ボトムアップでいろいろな学力向上に向けて工夫している様子が見られた。 ・意識調査において、学年別データも見てみたい。 ・家庭学習の方向性も上昇している。
			○ICT機器を積極的に活用した学習活動	学校評価アンケートの肯定的な回答率 ※ICT機器の項目「11」	90%	92.4% 94.6%	105.1%	A	・ICT機器の項目は94.6%で、目標値を上回った。日頃の授業でICT機器を日常的に使用するようになり、その必要性や技能の向上を実感しているためだと考える。	・授業だけでなく、家庭学習で使用したり、自学自習のためのツールとしてさらに活用するなど効率的に活用することで生徒に基礎学力をつける取組をしていく。	○				
		学習分析を基にした授業改善と探究的な学習(PBL)の充実	○学習分析事業等による定着状況の把握と改善に向けた取組 ○総合的な学習の時間での生徒の主体的な学習の場の設定	学校評価アンケートの肯定的な回答率 ※主体的な場面の項目「6,7」	70%	88.0% 67.4%	88.6% 63.3%	126.6% 90.4%	A	・6,7の項目において概ね目標値を上回った。特に、「ピア学習やグループ学習では、自分の考えを伝えたり、人の意見を聞いたりして学習を深めています。」というアンケート項目に肯定的に答えた生徒の割合は88.6%であった。これは研究授業や日頃の授業においてグループ協議を意識して学習内容を深めよう意識して授業づくりをしてきた成果ではないかと考える。	・今後も研究部を中心に、学力向上や主体性の向上に向けて取組を進めていく。授業改善と探究的な学習の充実について研修を重ねていく。	○			
豊かな心・健やかな体	人に愛される生徒の育成	○生徒指導・教育相談活動の推進	○生活四訓の徹底 ○デイリーの取組やいじめアンケートの実施による状況把握 ○SC,SSWを含めた組織的な対応	学校評価アンケートの肯定的な回答率 ※自らあいさつ「5」	80%	72.0% 4.5%	70.8% 7.0%	88.5%	B	・あいさつについての肯定的な評価は昨年度末69.6%であり、1.2ポイント上回っている。  ・不登校生徒数は1月末の段階で25名である。	・体育大会等の行事や生徒会活動として取り組んでいる。部活動ごとのあいさつ運動を今後も生徒会と連携しながら進めていく。  ・不登校に関して、各担任・SSW及びSC等と教育相談委員会等で連携をとりながら組織的な対応を継続して行なっていく。	○			・不登校生徒に対するの関係機関との連携をより進めて、学校やそのほかの場所でも過ごしやすいように今後も組織的な取組が必要。
			○道徳教育の充実	○協動的な学び合いの場を仕組み議論する道徳の授業改善	学校評価アンケートの肯定的な回答率 ※主体的な場面の項目「12,13」	90%	83.0% 90.7%	83.3% 94.2%	92.6% 104.7%	B	・道徳の授業が好きだと感じる生徒は83.3%で昨年度末と同等である。 ・道徳の授業の必要性や生きていく上で大切なことを学んでいるという意識は94.2%の生徒が感じており、中間地点より4ポイント増加した。	・授業改善に関わる校内全体での研修の充実を図る。 ・経験年数の少ない教員の参考となるよう、授業参観の機会を持ち、授業イメージを確立させる。	○		
		○生徒会活動の充実	○生徒の主体的な場面の設定や肯定的評価	学校評価アンケートの肯定的な回答率 ※主体的な場面の項目「7,9」	90%	90.8% 94.9%	90.7% 92.9%	100.8% 103.2%	A	・昨年度末と比べ「委員会、係の仕事等に責任を持って取り組み達成感を感じている」、「学校行事などではみんなと協力し、一生懸命取り組み達成感を味わうことができる」とも微増している。	・生徒会役員・委員長と担当教員が連携を密に取ることでより充実した活動を目指す。今学期末には生徒会役員選挙があり、活動内容の見直しを進め、生徒が活躍する場を増やしていく。また、自信をもって活動し一体感や達成感が得られるよう環境を整えていく。	○			
働き方改革の推進	生徒と向き合う時間の確保	○長期的な展望をふまえた、効率的な業務改善の推進	○業務のスクラップ&ビルドによる業務改善 ○週に1日5時間授業の設定と定時退校日の設定	学校評価アンケートの肯定的な回答率 ※教職員の業務改善の項目「8」	90%	72.2% 66.7%	90.9% 63.6%	101.0%	A	・「少しでも早く退校できるように業務改善に努めている」というアンケートに肯定的に答えた教職員の割合は90.9%であった。 ・水曜日を部活動休業日・定時退行日、5校時の日として取り組んでいる。水曜日は勤務終了時刻から1時間以内の退校を目標に、業務改善を進めている。	・定時退校日に早く退校できるよう、日頃から意識して業務の計画を立てるようになる。 ・定時退校日に各学年で退校を呼びかけ合うことを通して、お互いに勤務時間短縮に向けた声掛けをし合える環境づくりを行う。	○			・スクラップ&ビルドは言うには優しく行うは難しいが、学校文化として定着してきたように感じる。 ・業務改善の成果が出てきている。
			○長時間勤務の縮減	○学校組織のスリム化と業務スケジュール管理の徹底	在校時間45時間以内の者の割合	前年度比増	66.7%	63.6%	103.8%	A	・勤務時間外の在校時間が45時間以内である者は、1月末までの253名中161名、63.6%であった。昨年度末は61.3%であり、約2ポイント改善している。 ・学年主任を中心にお互い声を掛け合うことができ、徐々に成果が表れてきている。	・学年会について、終了時刻を各学年で設定して時間の短縮をはかる。 ・学校行事等、今年度取り組んだことについては、行事終了後すぐに要項等の修正を行い、次年度のフォルダに保存しておくことで、先を見通した業務改善としていく。	○		

【j:自己評価 評価】  
A:100≦(目標達成) B:80≦(ほぼ達成)<100  
C:60≦(もう少し)<80 D:(できていない)<60

【l:学校関係者評価 評価】  
イ:自己評価は適正である。 ロ:自己評価は適正でない。  
ハ:分からない。